

難波 駿
著

習歩

学 1

超

度の
進め

由じ

自は

目
具

体!

はじめに

自由進度学習

1

授業の進度を学習者が自分で自由に決められる

2

子どもが自分に最適だと考える計画を立てる

3

自分の判断で行動し、その結果を、
責任をもって受け止める



「自由進度学習」…聞いたことはあるけど、やったことはない。

本書を手にとってくださった皆さんも、同じ思いの方が多いのではないのでしょうか。本書執筆時に SNS を通じて 151 名の教員の方へのアンケート結果は以下の通りです。

①自由進度学習を現在取り入れている	8%
②自由進度学習は知っているが、やっていない	69%
③自由進度学習を過去にやっていた	6%
④自由進度学習の手法を知らない	17%

本書は「自由進度学習に興味はあるけど、どのようにすればいいのか？」

6年かけて、自由進度学習に取り組んだ現公立小学校教員の立場から、
具体的実践を伝える本です。

まずはどのような歴史があり、どのようなやり方で、どのような効果があるか、概要を述べていきます。

歴史

一般に「(単元内)自由進度学習」と呼ばれる学習方法で、オリジナルの実践は1980年代初頭。愛知県の東浦町立、緒川小学校が「一人ひとりの個性に合わせた深い学びを実現する教科の一人学び」を目指して積み重ねてきた実践です。緒川小学校に赴任し自由進度学習と出会い、実践を重ねた竹内淑子さんは「教科の一人学び自由進度学習の考え方・進め方(黎明書房)」で次のように紹介されています。

*

緒川小学校には「週プロ」と呼ばれる教科の一人学びがあった。時間割に毎週2時間続きが3コマ、計6時間が位置づけられていた。「週プロ」は「2教科同時進行・単元内自由進度学習」の緒川小学校での呼称である。(中略)「てびき」に示された目標や学習の流れを参考に、自分で2教科(2単元)をどういう順で進めていくのか決める。

*

1980年からは約40年経った現在。新学習指導要領の改訂に伴い「個別最適な学び」や「ICT活用」の観点から再注目されている教育手法です。

やり方

その名の通り、授業の「進度」を、子ども一人ひとりに任せ、各自が自分に最適だと考える学習計画を考え、自らの判断と責任で「自由」に「学習」していく授業手法です。たとえば、小学5年生算数、教科書p.16～20の内容を3時間かけて学ぶとします。子どもに進度が任されているため、一つの教室の中にいろいろな子が存在します。

- ・1時間で全ページ終わってしまう子
- ・1ページだけやった後に、復習問題をドリルで解く子
- ・基本的事項の習得に自信がないので、教師の説明を再度受ける子
- ・友だちにアドバイスを求める子
- ・動画教材で学ぶ子
- ・小学4年生の学習事項から学び直す子

35人学級であれば、35通りの「計画・目標・動機」と「学習方法」が生まれます。具体的実践例は「CHAPTER 4」にて全12実践を紹介します。

- ・「単元内自由進度学習」（単元の枠組み内であれば自由にOK）
- ・「教科内自由進度学習」（その教科の枠組み内であれば自由にOK）
- ・「全教科内自由進度学習」（学校の教科の枠組み内であれば自由にOK）
- ・「学習内自由進度学習」（何を学んでいてもOK）

など様々なタイプがありますが、本書では全て「自由進度学習」に統一させていただきます。

効果

本書では、実際の公立学校の子どもの具体的な姿を通し、効果を伝えます。

- ・自分から学ぶ力
- ・自分から考える力
- ・自分から調整する力
- ・自分から工夫する力
- ・自分からふりかえる力

「自由」を得た子どもは「自分から〇〇する力」を飛躍的に伸ばしていきます。自由進度学習の学びを重ねるごとに、自律した学習者への階段を登っていく様子がハッキリとわかります。

全体像をお伝えしました。しかし、なぜ2023年の令和の時代に自由進度学習なのか？と思われた方もいると思いますが…むしろ今です。

令和時代、自由進度学習は“より”展開しやすく、“より”取り入れるメリットが大きい授業手法です。その理由を、私の経験をもとに話します。

2017年、自由進度学習に初挑戦しました。小学6年生の担任で、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の戦国から江戸幕府の安定までの学習でした。子どもたち自らの好奇心を切り所に学習進度を計画し、学んだのがきっかけです。

そのときの子どもたちの目の輝きが忘れられずに、同じ年の「小学校の算数総まとめ」の単元でも再チャレンジ。教師が黒板で1題ずつ時間を決め、子どもと答えを確認する従来の方式を辞めて、自由進度学習を取り入れました。小学6年生の子が自宅から小学3年生のドリルを持って、私のもとに駆け寄り、申し訳なさそうに話しかけてきました。

「先生、俺、そもそも、わり算わからんから教えて」と。

私が疑いもせずに取り組んでいた全員一律の方法では、声を出せずに困っていた子がいたのかもしれないと反省しました。

2018年から本格的に自由進度学習を取り入れましたが、デメリットに感じる部分も当然ありました。特に大きく感じていたことが2つあります。

1: 授業準備に膨大な時間がかかること

2: 結局は「困っている子に指導する時間」に大半の時間がかかること

この2つの課題を解決に導いてくれたのが「一人一台端末」の導入でした。私が勤めている自治体では2021年度から導入されました。導入前よりも遥かに自由進度学習を取り入れやすくなったと断言します。はじめの1歩を踏み出すには、絶好のタイミングといえます。

皆さん、「自由進度学習」に一度挑戦してみませんか？

どの単元でもいいです。5分でもいいです。

あなたの特性に自由進度学習が合うかもしれない。

クラスの子どもの価値観に自由進度学習が合うかもしれない。

やってみなくちゃわかりません。

授業のやり方を工夫することは、大きな一歩です。

さあ、やってみましょう、自由進度学習。

本書の読み方

1章 (CHAPTER)、2章では、自由進度学習の子どものメリットと先生のメリット。続けた先に見える教室の風景を伝えています。「自由進度学習を始めると、どんないいことがあるの？」と気になる方は、最初からお読みください。

3章、4章では、本書の題名の通り「超具体」の実践を掲載しています。3章では自由進度学習に必要なだと考える基本の型を説明しています。基本の型が身につけば、どんな教科に対しても、どんな教育活動に対しても、応用が効きます。

4章では、小学3年生、5年生、6年生の子どもたちとの「自由進度学

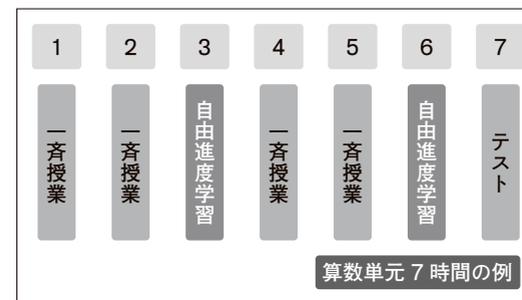
習の具体実践」を12実践紹介しています。小さな1歩目が踏み出しやすいよう、5分から始められる実践から掲載しています。「まずは自由進度学習の具体例が知りたい!」と思う方は、3章、4章からお読みください。

5章では、少し視点を変えて自由進度学習における心のもち方・考え方を、6章では、自由進度学習が令和時代の教育において、重要だという想いを綴りました。7章では、自由進度学習を取り入れたいけど悩んでいる方に向けた「Q & A集」を掲載しています。すでに自由進度学習の知識や経験がある方は、こちらからお読みいただくのも、お勧めです。

子どもたちに「任せる範囲を増やすこと (自由)」は、けっして「放任」しているわけではありません。「自由」を経験しないと得られない力があります。「自由」に任せたからこそ、見つかる子どものよさがあります。

「自由進度学習」という授業手法が、皆さんの「明日の授業が楽しみだ」と思えるきっかけとなってくれたら、著者として、それ以上の喜びはありません。

難波駿



自由進度学習で、主体的で自律した学習者を小学校の教室から。

はじめに 002
 本書の読み方 006

CHAPTER 1

「自由進度学習」を楽しみにする子どもたち
 ——自由進度学習をすると、どんないいことがあるの？

2時間続けて社会がしたい！ 014
 勉強は遊びの選択肢の一つ 016
 先生がいない日でも、やることは「自分を高めること」 018
 小学5年生との学びの記録～学びの責任を手渡す楽しさと難しさ～ 020
 「自由進度学習」子どものメリット6選 022

COLUMN 1 子どもと保護者から見た「自由進度学習」

CHAPTER 2

「自由進度学習」で輝く先生と子ども
 ——自由進度学習をするとどんないいことがあるの？

「自由進度学習」先生のメリット6選 028
 家庭学習にもプラスの影響を与える「自由進度学習」の可能性 030
 一斉学習に11年、自由進度学習に6年 032
 白か黒ではない。どちらにも、それぞれのよさがある 034

COLUMN 2 教育実習生から見た「自由進度学習」をする子どもたち

CHAPTER 3

「自由進度学習」の基本の型
 ——自由進度学習の具体例を知りたい！

学び方の基本 040
 学習の計画を立てよう 042
 2種類の目標を書き出そう 044

学習に集中しよう 046
 環境を自分で工夫しよう 048
 小さな分析を繰り返そう 050
 学習者としての「メタ認知」の時間をとろう 052
 最も大切だと思うことから取りかかろう 054
 自分は成長できると考えよう 056

COLUMN 3 「独学の時間」～勉強の基本の型を学校で鍛える～

CHAPTER 4

超具体「自由進度学習」はじめの1歩
 ——自由進度学習の具体例を知りたい！

STEP 1 自分で決める場面を取り入れてみよう 062
 STEP 2 最初の5分で「自由進度学習」をやってみよう **漢字編** 066
 STEP 3 最初の10分で「自由進度学習」をやってみよう **国語編** 070
 STEP 4 最後の20分で「自由進度学習」をやってみよう **算数編** 074
 STEP 5 中盤の35分で「自由進度学習」をやってみよう **社会編** 078
 STEP 6 単元1時間分で「自由進度学習」をやってみよう **算数編** 082
 STEP 7 単元2時間分で「自由進度学習」をやってみよう **国語編** 086
 STEP 8 単元3時間分で「自由進度学習」をやってみよう **音楽編** 090
 STEP 9 単元5時間分で「自由進度学習」をやってみよう **社会編** 094
 STEP 10 単元7時間分で「自由進度学習」をやってみよう **算数編** 098
 STEP 11 2教科同時進行の「自由進度学習」をやってみよう **図工と家庭編** 102
 STEP 12 3教科組み合わせの「自由進度学習」をやってみよう **国語と社会と総合編** 106

COLUMN 4 道徳の授業は、子どもたちが進める
 ～問いを立てる→考える→対話する→ふりかえる～

CHAPTER 5

「自由進度学習」で「勉強の見方」に変化を起こす ——自由進度学習を多様な視点から考える

勉強は苦役でもなければ、我慢でもない	114
「自由進度学習」が実現したビジョンを語ろう	116
思わず強制しちゃっている自分に気づく	118
子どもは「よくなりたい」と思っている	120
こんな姿を具体的にほめていこう、広めていこう	122

COLUMN 5 朝の3分ペアトーク～対話の基礎を習慣で鍛える～

CHAPTER 6

「自由進度学習」で広がる、令和の教育の可能性 ——自由進度学習を多様な視点から考える

新学習指導要領と「自由進度学習」	128
個別最適な学びと「自由進度学習」	130
協働的な学びと「自由進度学習」	132
幸せと「自由進度学習」	134
科学的根拠と「自由進度学習」	136
GIGAと「自由進度学習」	138

COLUMN 6 おすすめ動画コンテンツ 15 選
～想いは同じ。たくさんの大人で、子どもを育てる～

CHAPTER 7

「自由進度学習」はやってみたいけど心配なこと ——自由進度学習へ1歩を踏み出すあなたへ

「自由進度学習」を始める前によくある質問 7 選

①自由にすると手を抜いたりサボったりしないのですか？	144
②子どもが学んでほしい箇所を学んでいないときはどうしますか？	146
③「自由進度学習」の準備に、相当な時間がかかりませんか？	148

④テストの点数は下がりにませんか？	150
⑤保護者や学年の先生には、どのように説明していますか？	152
⑥早く終わってしまう子、または、遅い子や自分で進めるのが難しい子には、 どのように対応していますか？	154
⑦自由進度学習のときの「誰と一緒にやるか」は教師が決めていますか？	156

COLUMN 7 「読書家の時間」～一人で没頭する経験～

購入特典

自由進度学習の土台を築く学級通信集 16 選	162
自由進度学習で使用したワークシート集 18 選	190
謝辞～おかげさま～	210
おわりに～いろいろな人がいる場所「学校の教室」	211

学び方の基本

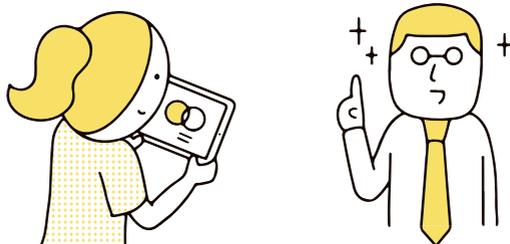
老子の格言の一つに「授人以魚 不如授人以漁」という言葉があります。「人に魚を与えると1日で食べてしまう。しかし人に『魚の獲り方』を教えれば生涯食べていく事が出来る」という意味を表しています。

教師の大切な仕事の一つは子どもに「魚=知識」を与えることです。しかし、「魚の獲り方=学び方」も合わせて教えることができれば、素晴らしいことだと思いませんか。

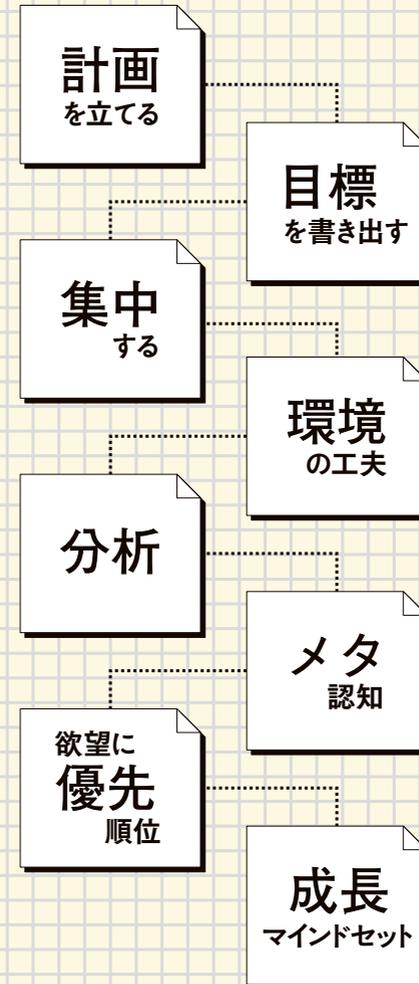
自由進度学習は、学習内容を教えるに留まらず、「学び方の学び方」も並行して鍛えていきます。「学び方」の成長なしには、成立しない授業手法なのです。

3章では、学習者として必要な「基本の型8選」の鍛錬法を紹介します。

授業を通して、子どもたちに「学び方」を教え、体験させ、育てていきましょう。



勉強の基本の型



基本があって、応用が生まれる

学習の計画を立てよう

【休み時間の終わりを告げるチャイムが鳴る】

C:「次の時間、何だっけ？」
C:「社会じゃなかった？」
C:「社会か～何すんだろうね」
C:「う～ん。わかんない」

子どもたちにとって勉強が自分事になっておらず生まれた会話例です。
一方、教師はどうでしょうか。

「教科書の何ページをやるのか」
「身につけたい指導事項は何か」
「どんな発問をして、授業を始めるのか」

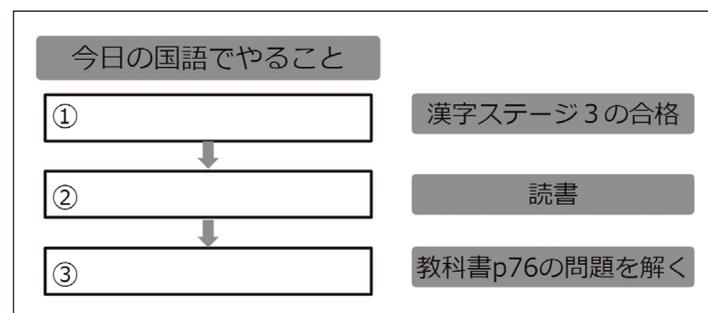
私たち教師は授業が自分事になっているので見通しをもって始めていますよね。

学習の主人公は子どもたちにも関わらず具体的なイメージを教師しかもてていないのはもったいないと考えます。

そこで、日々の授業で、子どもたちに「学習計画」を立てる場面をたくさん取り入れましょう。右のページにて、すぐに実践しやすいものを厳選して2つ紹介します。「順番」と「手段」の計画から始めてみましょう。

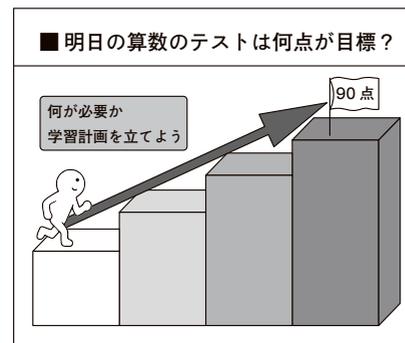
1 「やる順番」の計画を立てる場面を取り入れよう

最初に取り組みやすいのは「やる順番」を子どもたちに決めてもらうことです。教師が「何をやるか」、2つか3つ程度で指示をします。その順番を決めてもらうのです。これだけでも「やらされる感」はかなり減っていきます。子どもたち自身で、どの順番がいいか自分で計画を立ててもらいましょう。



2 「何をやるか」の計画を立てる場面を取り入れよう

テスト勉強の時間は、子どもたちもイメージしやすく「学習の計画」を立てやすい時間だと考えます。「明日の、テストは何点が理想なのか」を目標設定する時間を確保します。その後「じゃあ、今日の授業では、あなたは何をしたらいいのか？」と問いかけ学習計画を立てる経験を積んでもらいましょう。



「何をやるのか」の選択肢は少しずつ増やしていきましょう。算数の場合だと、習熟の時間には個々人に合わせて多数の勉強方法を選択肢として示しています。4章 step4 (p77)「6つのタイプ」を御参考ください。

2種類の目標を書き出そう

計画を立てる習慣がついた後は、**目標（ゴール）もセットで設定する場面**を取り入れていきましょう。

私はよく、勉強を「旅」に例えて以下のような語りかけをします。

「君たちは常に知の世界を旅している。でも『どこにいるのか』『どこに行きたいのかもわからない』そんな状態で一步踏み出せるかい？」

目標（ゴール）を設定する習慣をもつことは、どこに向かうべきかの「コンパス」を手にして、見る習慣をつけることです。

私は2種類の目標を立てるよう促し、授業の中に取り入れています。

1：中・長期目標（1週間以上～1年以上先の話）

2：短期目標（1日以内）

2種類の目標を書き出す行為を1週間に一度（難しい場合は最低1カ月に一度）は取り入れましょう。この書き出す行為が「自分自身との約束」となり、自由時間の子どもの活動が大きく変えていきます。

2種類の目標を立て、子どもたちを「自由の知の旅」へと解放してみたいです。旅といっても、学校の教室にいるのだから安全性は確保されています。自由にすると遊びだす。これは子どもたちが「どこに向かうべきか」のコンパスを持っていないからではないでしょうか。

明確な目標をもっている子どもを「自由にどうぞ」と任せたとときの行動を紹介した学級通信を一部紹介します。

自分の「人生のコンパス」があるAさん

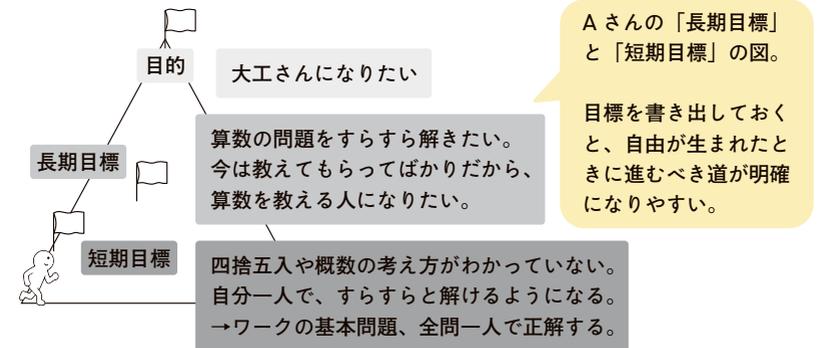
先週の全校朝会が終わった後の話。予定の時刻より15分早く終わったので、いつものように「ご自由にどうぞ」と伝えました。

すると先生の目の前にいたAさんが「よしっ！ 算数の勉強できるぞ！」と言って、すぐに算数の勉強に取りかかりました。先生は気になってインタビューしました。

先生 「Aさん。算数は次の時間にもあるよね？ なんて算数の勉強を始めたの？」

Aさん 「実はこの前の授業で『上から2けたの概数で求めましょう』って問題出たじゃないですか？ 友だちから教えてもらって一応合格したんですけど、あんまり意味がわからなかったんです。僕の長期目標は、友だちに教える人になって、算数の時間にも人の役に立てるようになりたいので、算数をがんばりたいです。」

Aさんは「自分のコンパス」がある人だと思いました。自分の人生の「向かっていきたい方向」を自分の心の中にしっかりとっている。だから人に流されないし、自由を与えられたときに「算数をやりたい！」とすぐに行動を起こせる力もあるのだと思いました。素敵だな。



学習に集中しよう

勉強に集中できない悩みを多くの子どもたちは抱えています。「どうして集中できないのか?」「どうやったら集中できるようになるのか?」以下のような学級通信で伝えました。「フロー状態」という言葉を教えます。

勉強が苦痛じゃなくて夢中になる経験をしてほしい

今週 12 日の社会科の授業。チャイムが鳴った後も勉強を続ける〇〇さんに話しかけると驚きの返事が…。

「えっ!? チャイムが鳴ってたの? 全然気づかなかった。もう授業終わりですか?」

〇〇さんのような状態を専門用語で「フロー状態」といいます。フロー状態とは、「そのときにしていることに、完全にのめり込んでいる状態」です。

先生が日々伝えている、夢中や没頭を表す言葉です。〇〇さんは時間のことなど忘れ、社会科の「フロー状態」に入っていたのでしょう。とても素敵なことですね。

先生が最近読んでいる本によると、フロー状態に入る 4 つのコツが紹介されていました。自分の勉強では、その条件を満たしているか考えてみましょう。

- 1: 注意散漫な原因をとことん排除する
- 2: 十分な時間を確保すること
- 3: 好きなことをすること
- 4: 少しだけハードルを高く目標設定をすること

1: 注意散漫な原因をとことん排除する
→やることを一つに決めましょう。人間は一つのことには集中できません。

今は教科書を読む時間にするのか、友だちと情報共有する時間なのか。「何の時間なのか?」を決めて、それを実行することに集中しましょう。

2: 十分な時間を確保する
→タイマーを使いましょう。「今から 15 分間は、教科書から情報収集をする」など取り組む時間を決めましょう。

3: 好きなことをする
→たとえば、一人で黙々と取り組むことが好きな人もいます。友だちと協力しながらやりたい人もいます。自分の好きとかけ合わせて、目標に向かって学習を進めましょう。

4: 少しだけハードルを高く目標設定をする
→最初に立てる計画が簡単過ぎる計画になっていませんか? 逆に難しすぎる計画になっていませんか? フロー状態に入りやすいのは「少しだけ難しい」というような難易度の計画だそうです。試してみましょう。

直接子どもたちに語りかけてもいいでしょう。「どうしたら集中できる状態を自分でつくり出せるのか?」知識を伝えるのが効果的です。

知識を伝えた後はすぐに「試す時間」を必ず取ってください。

「先生、タイマーを使って時間を計って学んでもいいですか?」
「先生、今までは 80 点を目標にしていたけど 90 点にしてみたよ!」

そんな声が聞こえてきたら最高です。子どもの新たな挑戦を即価値づけましょう。

CHAPTER 4

超具体 自由進度学習のはじめの1歩

STEP 1

自分で決める場面を 取り入れてみよう

自分から考えて、自分で決める力をつけてほしいと願う先生は多いでしょう。学校生活の中で最も多くの時間を占める授業の中で「自分で決める場面」を取り入れましょう。

ただし、注意点があります。クラス全員に問いかけて、7割の子が「はい」と同意したことは自己選択にはなりません。返事をしていない3割の子はもちろん、7割側の子でも「先生がやりたい方向性はそっちなんだ」と感じる子がいるからです。そもそも「反対意見を言うのが面倒くさい」という子も数多くいるでしょう。全員に問いかけて、全員で決める機会では、自己決定の力はつきません。

「自分で決めた行動が、自分の勉強で即実現する経験の積み重ね」が重要です。新しく受けもった学級の場合、4月の段階では、長い単元での自由進度学習は実施しません。まずは、自由進度学習の土台として「自分の勉強にかかわること」の自己決定を繰り返してもらいます。自分の学びにかかわることを自分の意志で決められることが、はじめの第1歩です。



4月に子どもに問いかける「選択」の例



(朝)

・身支度を済ませてから宿題提出？ 宿題提出してから身支度？

(授業中)

- ・1人でやる？ 誰かとやる？
- ・ノートにまとめる？ タブレットでまとめる？
- ・紙の資料集で調べる？ デジタル資料集で調べる？
- ・先に録音してから修正する？ 練習をしてから録音する？

(家庭学習)

・ノートにふりかえりを書く？ タブレットでふりかえりを送信する？

何度も何度も「選択する場面」を子どもたちに迫ります。このかかわりなしには、自由進度学習は始まりません。

「**選択する子ども**」を目の前で見ている、頻繁に伝えることが多いメッセージは次の3つです。

1 選ぶとは、もう一つの道を選ばないことでもある

選んだ活動を後悔したり、過剰に喜んだりする場面に遭遇します。その際子どもに伝えている言葉です。「選ぶとは、もう一つの道を選ばないことでもある」。たとえば、音楽の残り15分。リコーダーの練習をするか、他の曲の鑑賞の2択を迫られたとします。鑑賞を選んだら、鑑賞の力は伸びるかもしれない。でも、その15分で「成長したかもしれないリコー

ダーの技術」は失われたことになる。だから、どっちを選んだら得だという考えはないと伝えています。

2 なぜ選んだのか、自分に問いかける習慣をつけよう

なんとなく選んでいる場面に遭遇します。「友だちが選んでいたから」や「多くの人が選んでいたから」が選択の理由の子がいます。

そんな子に対して「なんでそっちを選んだの？ あなたの理由を教えてください」と問いかけましょう。問いかけ続けているうちに、子どもたちなりに自分で考えて選べるよう成長していきます。

3 ラクな道は楽しそうな道なのか？

自分のコンパス (p.44) を持っていない人は「ラクな選択」をしてしまう傾向にあります。長期的な幸せではなく、短期的な快楽を選択するのです。

「リコーダーはやりたくないから、鑑賞でもするか」の考え方で選択している人は、もったいないと伝えます。

ラクな道（短期的な快楽）を選び続けた5年、10年先に、楽しい未来（長期的な幸せ）は実現しそうか想起させる問いかけをしましょう。

「失敗したっていいじゃないか。学校は失敗する場所なんだ」

学校という場は、先生もいるし、みんなもいます。ちょっと高い壁でも乗り越えられる環境が整っています。だから挑戦しようと声をかけています。

「自分で考えて行動を選ぼうね」とメッセージを伝える際、子どもたちに人気の鬼滅の刃の話をよくします。学級通信より抜粋します。

自分のアタマで考えよう

「先生、夏休みに絶対読んでよね！」と激しくお薦めされていた「鬼滅の刃」をようやく読みはじめ、読み切ることができました。

ストーリーもキャラクターもどれも魅力的で、皆さんが大好きだった理由がわかりました。どうもありがとうございます。

さて、日常から「自分のアタマで考えよう」と言っている先生にとって、最も印象的だったシーンが、胡蝶しのぶシリーズで出てくる「カナヲ」の成長です。

自分で決めることができないカナヲは、コイントスで「自分の行動」を決めていました。主人公の炭治郎から話しかけられたシーンでは「会話をするかどうか」すらコイントスで決めていました。

その後、2人には以下のようなやり取りがあります。

炭治郎 「カナヲはどうしたかった？」

カナヲ 「どうでもいいの。全部どうでもいいから、自分で決められないの」

炭治郎 「この世にどうでもいいことなんて無いと思うよ。きっと、カナヲは心の声が小さいんだろうな。指示に従うのも大切なことだけど…」。

先生が普段から君たちに伝えているメッセージが凝縮されていると思いませんか？

「ノートに書いた方がいいのか、書かなくてもいいのか」

「休みの日は家で勉強したほうがいいのか、しなくてもいいのか」

「デザートは途中で食べてもいいのか、ダメなのか」

それは先生が決めることなの？ と伝え続けてきたよね。自分の人生ですよ。やはり皆さんには、自分の意思で、自分の道を歩んでほしいと思いました。自分で考えて決める力を身につけていきましょう。

CHAPTER 4

超具体 自由進度学習のはじめの1歩

STEP 2

最初の5分で「自由進度学習」をやってみよう 漢字編

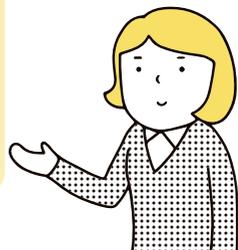
「漢字学習」に自由進度学習を取り入れてみましょう。年度当初は「一斉授業」の形式で丁寧に指導されている先生も多いと思いますが、少しずつ子どもたちに任せる時間を増やしていきましょう。私が一斉授業の時期に繰り返し指導する事項・手順は以下の通りです。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 今週、習う漢字の指定 (金曜日にテストがあることを見通す) | } 自由に任せると面倒で「やらない」箇所 |
| 2 音読をする (音読み、訓読み、熟語、文例) | |
| 3 書き順チェック (指なぞり、空書き、ペアチェック) | |
| 4 鉛筆でお手本をなぞる | } 自由に任せると「なんとなく」やってしまいがちな箇所 |
| 5 鉛筆で残りのマス埋めていく | |
| 6 教師にチェックをもらう | |

4月、5月の一斉授業で「漢字の学び方」を学級で共有しましょう。

一斉授業の漢字学習にも慣れてきた頃、こんな一言を言ってみては、いかがでしょうか？

これまで「漢字学習」は先生と一緒にやっていましたが、今日からは「自分で考えて」漢字の学習をしてみましょう。国語の最初の5分は「漢字の時間」にします。金曜日の漢字テストは変わりません。目標を決めて、目標に向かって、自分に合った漢字の学び方を見つけていきましょう。



子どもたちは「任されること」が大好きです。これまでは先生が教えてくれていた時間を自分たちで進めることができる喜びです。特に「任せた最初の時期」のやる気は凄まじく、そこを見逃さず、価値づけていきましょう。漢字の自由進度学習をスタートさせた次の日に発行した学級通信を紹介します。

自分で学ぶ 5分間の「漢字学習」

今週から漢字学習の時間を皆さんにらせてみました。国語の授業開始直後の「5分間」。あなたが自分に必要だと思う漢字学習を、自分に合ったやり方で進めていきます。

「6月から挑戦してみる？」と尋ねると、君たちは「やってみたい！」と目を輝かせて言っていたのが頼もしいと思いました。失敗したっていい。上手くいかなかったっていい。それも「勉強」なんです。

まだ始めて1週間ですが、漢字学習の時間を観察していて「いいな」と思ったことを今回の通信では紹介していきます。

◆5分間、勉強に集中する雰囲気をつくらせてくれたこと

→「勉強に関係ない話はやめようね」「今は漢字学習の時間だよ？」…そんな声かけを先生は一言もしませんでした。これは素晴らしいことです。30人以上の教室で、みんなで「漢字の力をつける」目標に向かっていくことは決して当たり前なことではありません。よいクラスになっていきそうだね。

◆読みの時間や書き順を大切にしていること

→「まずは見慣れること、読めること。そして正しい書き順であること。これは漢字学習の土台部分」。4月からみなさんに伝え続けてきました。自分たちで学習を進めるときも、土台を丁寧に進めている人がたくさんいました。4人の姿を紹介します。

Aさん→国語デジタル教科書のフラッシュカードを使って、何度も「読みの音読」に挑戦していました。Aさんは、まずは完璧に読めるよ

うになってからドリルに取り組んでいるそうです。

Bさん→ドリルパークを使って「書き順」と「キレイな字」の両方のレベルアップを目指しています。ゲーム要素を取り入れて、楽しく「書き順」を学んでいるのがいいね。

Cさん、Dさん→漢字学習のラスト1分にお互いにクイズを出し合っていました。「熟語の読み方」をクイズにしたり「書き順」を出したり、曜日ごとにテーマを変えているようです。誰かがんばるのもいいよね。

まだ始まって1週間。漢字学習の時間に見つけた「いいね」はどんどん共有していきますね。学ばっておもしろいね。

子どもたちに「**任せた**」後の「**価値づけ**」が大切です。なぜなら、子どもたちにとって最初のころは「**何がいいことなのか?**」がわからないからです。教師の価値づけがまったくない状態だと「**黙って漢字ドリルを終わらせる時間**」へと変わってしまいます。**教師の目から見て「よい学び方」だと感じた行動はどんどん言葉にしましょう。**

漢字学習の自由進度学習を運用する際の3つのポイントを共有します。

1 自分の目標を決める時間を確保する

漢字は子どもたちにとっても「できた」か「できていない」かがハッキリとわかる学習です。「**金曜日は必ず漢字10問テスト**」のように、目標をもちやすい仕組みにしましょう。

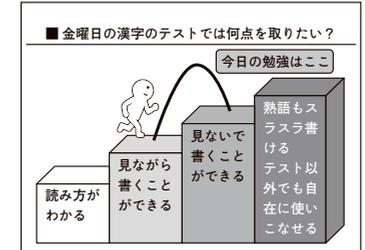
子どもたちが目標をもって、「**毎日の5分漢字学習**」に臨めるようにすると、学びに向かう目の色が変わってきます。

2 自分の現在地と「何のための学習なのか」を意識させる

漢字学習の時間、右の図を大型テレビに映しています。子どもたちの学習を観察しながら「**〇〇さんは、今どこの階段を登ろうとしているの?**」と問いかけます。

漢字を「書くこと」は目的ではありません。漢字ドリルを「埋めること」は目的ではありません。

成長の階段を登るために、必要な勉強は何かを考えて学ぼう伝えます。



3 漢字が得意な子には、新たな挑戦を促す

漢字学習が得意な子にとっては、「**金曜日の漢字10問テスト**」だけでは、モチベーションの維持が難しいです。「**100点が取れて当たり前**」のテストでは「**学ぶ喜び**」は感じられにくいのです。3回連続で満点を取った子には、次のようなスペシャルメニューを提示します。

◆100点満点ではなく200点満点に変更

→指定された漢字の外枠に「その漢字を使った別の熟語」をもう一つ書くことができたならプラス10点のルールを追加します。

◆ランダム問題に挑戦する

→範囲を「これまで習ったすべての漢字」とする。毎週抜き打ちテストがあるイメージです。難易度が一気に跳ね上がるので、教師の後押しがないと挑戦しにくいです。漢字が得意な子ほど、家に70点台のテストを持って帰りたくないのです。挑戦したことをほめたたえ、失敗しても大丈夫な雰囲気づくりと共に進めましょう。

ランダム問題に挑戦している子の「**学期末の抜き打ち50問漢字テスト**」の平均点は95点を超えます。いかに日常の学習が大切かわかります。

CHAPTER 4

超具体 自由進度学習のはじめの1歩

STEP 3

最初の10分で「自由進度学習」をやってみよう 国語編

国語は「毎日ある教科」という唯一無二の特性があります。国語の授業の最初10分間を「漢字と音読」の枠組みの中で子どもたちが自由に学んだ実践の紹介をします。

【国語授業の基本的な流れ】

- ・「漢字と音読」の自由進度学習（10分）
- ・教科書を用いた通常授業（35分）

1カ月半に一度、以下の「ワークシートのデータ」を子どもたちに配付します。

国語の10分間の基礎トレーニング

6月1週～7月2週

	1stage	2stage	3stage	4stage	5stage	6stage
漢字の力 テスト第1回～第6回						
熟語力・語彙力 漢字テスト「+α」						
音読の力 『すがたをかえる大豆』	友だちからの合格 <input type="checkbox"/>		先生からの合格 <input type="checkbox"/>			

「漢字と音読」の自由進度学習では、子どもたちは8種類の行動から、自分で何が必要か考えて、選択し、勉強することになります。

- ① 漢字のドリルに取り組む
 - ② 漢字テストを受ける
 - ③ 漢字再テストを受ける
 - ④ 熟語の習得や語彙力を増やす勉強をする
-
- ⑤ 音読の練習をする
 - ⑥ 音読のテストを友だちに聞いてもらう
 - ⑦ 音読の個別指導を教師から受ける
 - ⑧ 音読のテストを録音する

漢字カレベルアップ

音読カレベルアップ

6月1週～7月2週の間、全部で30時間の国語の授業があります。（3,4年生だと42時間、1,2年生だと54時間）

国語の最初の10分間を毎日固定してしまうのです。「それだと飽きてしまうのではないですか？」と思われるかもしれませんが、毎日取り組むと「習慣」へと変わります。大切なことは「習慣化」してしましましょう。

なぜ漢字学習を自由進度学習に取り入れるのか？

「漢字ができない」＝「国語が苦手、嫌い」と考える子どもがたくさんいると強く感じていました。大きな原因は2つだと考えています。

1 授業中に漢字に取り組む時間が確保されていない（週1回とかではなく毎日必要）

授業中に、書き順や部首のみを確認し、「あとは各自でやっておいて方式」では、漢字の力はまったく身につけません。「家庭での勉強面のサポート」がある子だけが学びを進めていくでしょう。

漢字習得の遅れは、すべての教科の学びに影響が出ます。漢字学習は全

教科の学びの土台です。毎日、じっくりと取り組む時間を確保しましょう。

2 教師発信のやり直しの蔓延

「基準点は90点。それ以外は再テストです」

「付箋を貼った箇所を直して、来週の金曜日までに再提出してください」

漢字指導の場では、よくやってしまう手法ではありますが、これもほとんど効果がないと反省しています。

休み時間や家での自由時間に、強制的に侵食してきた「やり直し」は勉強ではなく作業化します。いかに早く終わらせるか、いかに手を抜くか。漢字の力がつく可能性は限りなく低いでしょう。

「漢字と音読」の自由進度学習では、時間の使い方は子どもたちに任せられています。漢字テストも音読テストも毎日受けてもいい仕組みを取り入れています。何度でも挑戦できる安心感は子どもの考え方をたくましく変えていきます。

右下の子のワークシートを見てください。この子は90点では満足せず、「自分から」再テストを希望しています（5月時点では、70点で終えていた子）。熟語追加のミッションを加えて、どの漢字テストも200点満点にすることを「楽しみながら」学んでいるのです。

「テストは何度受けてもいい」

好奇心旺盛な子ども時代に大事な価値観だと思っています。



なぜ音読学習を自由進度学習に取り入れるのか？

教員となり、子どもの姿を見て強烈に印象に残ったのは「音読力の重要性」です。

流暢に読める子とそうでない子の差があまりにも激しいのです。漢字指導と同様「毎日の地道な鍛錬」が必要な力だと考えています。必要な力だからこそ、「宿題音読カード」のような形で練習時間を確保してしまいがちですが、「家庭でのお任せ状態」となってしまいます。重要だからこそ、学校にいる時間に、みんながいて、背中を押してくれる人がいて、他の誘惑が少ない「授業時間中」に取り組むべきだと考えています。

6週間の一つ、音読課題として「教科書の長文」を提示します。基準は「スラスラ・ハキハキ・正しく」と伝えています。子どもたちは、指定した期日までに「友だちの合格」をもらい「データ上で教師に提出」する仕組みとしています。

自由進度学習にするよさは音読の個別指導が可能な点です。算数の基本的な学習や国語の音読などは、圧倒的に個別指導の効果が高いです。10分間、私は基本的に「音読の個別指導」をしています。音読の個別指導の隙間に、1人数秒程度で、どんどん漢字テストの丸付けをしています。音読を授業時間内に取り入れましょう。

国語の10分間の基礎トレーニング

6月1週～7月2週

	1stage	2stage	3stage	4stage	5stage	6stage
漢字の力 テスト1～7	90点 再100点	100点	100点	80点 再100点		
熟語力・語彙力 テスト100点以上	150点 再200点	160点 再200点	180点 再200点	200点		
音読の力 『すがたをかえる大豆』	友だちからの合格 <input type="checkbox"/> 先生からの合格 <input type="checkbox"/>					